

# 良食味・多収の水稲品種「あきだわら」の特性と栽培指針

(平成22年3月8日 暫定版)

## 1. 品種の特性概要

本品種は、収量性に優れる「ミレニシキ」に品質・食味の優れる「イクヒカリ」を交配後代より育成しました。一穂粒数が多いため、多肥栽培で標準施肥栽培の「コシヒカリ」より30%程度の多収が期待できます。食味は「コシヒカリ」に近く、玄米の外観品質は「コシヒカリ」と同等です。安価で良質な米商品として、業務用米等への利用が期待されています。

- 1) 出穂期は、作物研では「コシヒカリ」より9日遅く、成熟期は「コシヒカリ」より11日遅く、関東平坦部では「日本晴」並の“中生の晩”熟期に属します(表1)。
- 2) 作物研では、標準施肥栽培の「コシヒカリ」と比較して、同じ施肥量で玄米収量が13%多収、多肥栽培では31%多収です(表2)。一穂粒数が多く面積当たりの粒数が多いのが多収の要因です。
- 3) 玄米品質は「日本晴」と同等で「コシヒカリ」と同等かやや優ります(表2)。炊飯米の食味は、標準施肥栽培及び多肥栽培共に「コシヒカリ」に近い良食味です(表2)。
- 4) 耐倒伏性は「コシヒカリ」より優り「日本晴」並です(表3)。
- 5) 「コシヒカリ」同様、いもち病と縞葉枯病に弱いので(表3)、適正に防除を行う必要があります。常発地での栽培は避けてください。
- 6) 多収で米の外観品質、食味とも良いため、安価で良質な米商品として、業務用米等の用途が期待できます。

### 《品種名の由来》

秋にたくさんの米が収穫でき米俵が並ぶことから命名しました。



写真1. 「あきだわら」の圃場における草姿



写真2. 「あきだわら」の玄米

表1. 生育特性

品 種 名	試験 年次	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )
<標準施肥>						
あきだわら	平成 15年～ 20年	8.14	9.27	80	20.2	304
日本晴		8.15	9.26	84	19.5	382
コシヒカリ		8.05	9.16	93	19.1	358
<多肥>						
あきだわら	平成 16年～ 20年	8.14	10.04	88	20.6	343
日本晴		8.15	10.03	90	20.2	398

注) 作物研究所 (つくば市) における成績

施肥量：標準施肥は窒素成分 8kg/10a, 多肥は 12kg/10a

表2. 収量・品質

品 種 名	試験 年次	精玄米重 (kg/a)	比較 比率(%)	千粒重 (g)	玄米品質 (1-9)	食味
<標準施肥>						
あきだわら	平成 15年～ 20年	64.4	113	21.3	中上	-0.19
日本晴		56.8	100	22.1	中上	-1.52
コシヒカリ		56.6	(100)	20.6	中中	(0)
<多肥>						
あきだわら	平成 16年～ 20年	73.9	131	20.8	中中	-0.14
日本晴		65.4	116	22.0	中中	

注) 表1に同じ。

食味は、コシヒカリを基準とする食味官能試験の総合値 (-5 (不良) ~ 5 (良))

表3. 耐性・耐病性

品 種 名	耐倒 伏性	葉いもち 抵抗性	穂いもち 抵抗性	縞葉枯病 抵抗性	白葉枯病 抵抗性	穂発芽性
あきだわら	やや強	弱	やや弱	弱	やや強	やや難
日本晴	やや強	中	強	弱	やや強	中
コシヒカリ	弱	弱	弱	弱	中	難

## 2. 長所と短所

### <長所>

- 1) 多収。
- 2) 食味が良い。
- 3) 倒伏に強い。

### <短所>

- 1) いもち病に弱い。
- 2) 縞葉枯病に弱い。

## 3. 栽培のポイント

- 1) 関東・北陸以西が主要な適地です。
- 2) 「コシヒカリ」より晩生の品種であるため、水利慣行に留意する必要があります。
- 3) 同時期の移植での追肥時期は、茨城では「コシヒカリ」より 10 日程遅くなる。また収穫時期は 10～14 日程度遅くなります。
- 4) 「コシヒカリ」と同等の施肥でも 10%程度の多収は期待できるが、反収 12 俵以上を目指す場合は多肥にする必要があります。しかし極端な多肥は品質・食味を落とすことになるので、バランスの取れた収量レベルを産地毎に見出してください。
- 5) いもち病に弱いので、適宜防除を行ってください。多肥栽培となるため「コシヒカリ」並に弱いと考えてください。

## 4. 管理の要点

### 1) 基 肥

・「コシヒカリ」よりも窒素（N）成分で5割増し程度で多収となる事例が多いのですが、個々の圃場の地力によっても異なるため、地力のある圃場では3割増し程度から試みる方が無難です。倒伏には強いのですが、倒してしまうと登熟が低下して減収や品質低下を招くので極端な多肥は避けてください。

・全量基肥の場合は緩効性肥料を用いてください。

### 2) 播種量・栽植密度

・播種量は「コシヒカリ」並で良い。

・穂数が少ないため、やや密植の方が多収になるようです。

### 3) 追 肥

・追肥は、幼穂を観察し出穂の 15～25 日前（2mm～2cm）程度の時期に行ってください。暦では「コシヒカリ」よりも 10 日程度遅くする。止め葉が長いので、早く施しすぎると止め葉が伸びうっぺい型になるので要注意です。また食味を落とさないよう実肥は避けてください。

4) 防 除

・「コシヒカリ」同様、いもち病に弱いので防除を行ってください。縞葉枯病の発生が多い地域には向きません。

5) 収穫時期

・「コシヒカリ」より概ね 10 日から 14 日程度遅くなるので、極端な早期落水を避けてください。一穂粒数が多いので穂の基部に青粒が残る程度で収穫して良い。

<問い合わせ先>

農業・食品産業技術総合研究機構

作物研究所 低コスト稲育種研究チーム／稲マーカー育種研究チーム

TEL&FAX 029-838-8536/8950(直通)